

OTC 薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ 2018」対象症候「腹痛」

（第 12 回）報告

【開催目的】

地域におけるプライマリケアの重要な担い手である薬剤師が、来局者の病態を反映する情報や所見を自ら収集して疾患を推測し、適切な対処法を提案・実践するために、臨床判断能力に焦点を当て、薬局にしばしば来局する「腹痛」を訴える来局者を例に「効果的な情報収集と疾患の推測（症候からの鑑別）」さらに「疾患の重症度に応じた適切な対処法の提案と実践（トリアージ）」の2つのプロセスについて、簡単な演習とロールプレイを交えた参加型セミナーの形で習得することを目的とした。

また、第 12 回は、昭和大学薬学部生涯研修プログラムとの共催で実施することで、参加費の減額（3000 円）を可能とし、より多くの方が参加し易いように変更しました。

【実施概要】

OTC 薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ 2018」対象症候『腹痛』
（第 12 回）入門編

日時：2018 年 6 月 17 日（日）13:00～18:00（受付開始 12：30）

会場：昭和大学 旗の台キャンパス 1 号館 5 階 会議室 A・B・C 他（東京都品川区旗の台 1-5-8）

企画：木内 祐二 先生（昭和大学医学部）

主催：昭和大学薬学部生涯研修プログラム

共催：日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会（OTC 薬検討委員会）

ワークショップ内容：

1) 「腹痛」に対する臨床判断

腹痛を訴える患者からの情報収集と疾患の推測、患者に対するトリアージのプラン作成

— グループ討議とロールプレイを中心に —

2) 「腹痛」の基礎学習

【募集要項】

一般参加者

募集人数：先着 40 名（1 グループ 7 名程度）

参加費：3,000 円 会員/準会員/非会員（一律）（事前振込）

申し込み方法：昭和大学薬学部ホームページ『薬剤師生涯研修認定制度 2018 年度生涯研修プログラム 日程・内容』にアクセスし、申込フォームにて事前登録をお願いします。

（ http://www.showau.ac.jp/sch/pharm/lifelong_learning/prog/20180617.html ）

参加費は事前振込にてお支払いをお願い致します。振込口座・振込期日は、事前登録後、事務局よりメールにてご連絡いたします。

締め切り：6 月 7 日（土）まで（先着順）

なお、事前登録は下記の申し込み用 QR コードからアクセスして頂くと便利です。ご利用下さい。



参加人数：17 名（備考欄より本学会からの参加者 0 名）

プリセプター参加：1 名（宮川 辰治）

第 9 回日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会 学術大会ワークショップ

臨床判断ワークショップ体験版（咳・呼吸困難）報告

【開催目的】

地域におけるプライマリケアの重要な担い手である薬剤師が、来局者の病態を反映する情報や所見を自ら収集して疾患を推測し、適切な対処法を提案・実践するために、臨床判断能力に焦点を当て、薬局にしばしば来局する「咳・呼吸困難」を訴える来局者を例に「効果的な情報収集と疾患の推測（症候からの鑑別）」さらに「疾患の重症度に応じた適切な対処法の提案と実践（トリアージ）」の 2 つのプロセスについて、簡単な演習とロールプレイを交えた参加型セミナーの形で習得することを目的とした。

第 9 回学術大会でのワークショップ企画である本ワークショップは、9 時間の 1 日コースでしたが、今回、そのエッセンスを凝縮して、取り組み方や考え方を中心に 1 時間 30 分にまとめた「薬剤師の臨床判断ワークショップ 体験版」として開催した。

開催日時：2018 年 9 月 8 日（日）14：10～16：00

開催場所：金城学院大学 薬学部 4 階 演習室（405）

企画：木内祐二 先生（昭和大学薬学部）、狭間研至 先生（ファルメディコ(株)）

主催：日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会（OTC 薬検討委員会）

概要：

- 1) 薬剤師の臨床判断 ～地域医療イノベーションに向けて～ 狭間研至（ファルメディコ(株)）
- 2) 「咳・呼吸困難」に対する臨床判断

患者からの情報収集と疾患の鑑別、患者に対するトリアージのプラン作成 ～グループ討議とロールプレイを中心に～

事前参加登録人数：9名

当日参加人数： 名（事前の判断で自由参加としたため確認中）

【今後の課題/問題点】

第12回開催に関して、昭和大学薬学部生涯研修プログラムとの共催としても、WS参加者が少なかった。その原因としては、本WSの名称が健康サポート薬局研修の研修B（技能Ⅱ）での「薬剤師の臨床判断」と同様であることから、新規性が分かりづらいことが考えられた。

今後は、引き続き、他の類似のWSとの差別化や新規企画等の工夫が必須であると思われる。このような状況から、本WSのあり方の再検討が必要であり、アドバンスコースを発展させたWS、OTC薬のEBM、OTC薬に関する症例報告など、新しい観点（新企画）のWSを検討する必要がある。